

事業所における自己評価結果(公表)

公表 2022年 5月 13日

事業所名 ちあふるスクール枚方

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○		基本配置以上に、個別対応や配慮が必要な子どもに対応できる態勢を整えています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		段差のないワンフロアである。机などの角はクッションをつけている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の掃除・消毒を徹底している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標		
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○				
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		新しい取り組みや内容を考え、提案している。		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		直接的な集団活動が難しい際は、間接的に関わる機会を作っている。		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の活動記録をWEB上にて保護者様が確認出来るシステムを使っています。		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		連携した支援を行えるように情報共有の機会を増やす必要がある。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			担当者や支援担当の先生の確認をしている。	情報共有の機会を増やす必要がある。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			担当者や支援担当の先生の確認をしている。	情報共有の機会を増やす必要がある。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○		専門機関との連携により、有効な支援を行えるようにする必要がある。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			○		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
連携	29		○		
	30	○		毎日の活動記録をWEB上にて保護者様が確認出来るシステムを使っています。	
	31		○		利用児童だけでなく、保護者に対しても支援できる態勢を整えます。施設での関わり方を共有して保護者が子どもとの関わりを学べる機会を設けます。
保護者への説明責任等	32	○		入所手続きの際に、重要事項として書面と口頭でお伝えしている。	
	33	○			
	34	○			
	35		○		保護者皆様、共通の時間で子どもたちの通所の様子を見学できる機会を設けるようにする。
	36	○			
	37		○		年間を通しての活動概要や行事予定を把握できるスケジュール表をお渡しするようにする。
	38	○			
	39	○			
	40		○		
	非常	41	○		枚方市のガイドラインに従ったマニュアルを用意している。
42		○		防災訓練を行っている。	防災訓練の内容を、より具体的な災害の発生に備えて改善が必要。
43		○			施設で過ごす中で気をつけることを事前に確認する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーの有無を確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修機会を確保している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		危険な行動を制止した際に、保護者に伝達している。	事後報告ではなく、事前の説明や案内に組み込む必要がある。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。